

## 歴史から浮かび上がる〈感情〉の共同体

痛みは普遍的なのか——

生と痛みが絡まり合う感情の諸相を、イギリス史を舞台に描き出す。

17世紀から20世紀のイギリスをフィールドとして、神経医学の発達、貧者の救済、聖職者の処刑、宗教改革期の病、魔女裁判、夫婦間の虐待訴訟、動物の生体解剖などを題材に、6名の研究者が史料に残された〈生きられた痛み〉を照らし出し、感情を歴史学の視点から考えるための視座を開く。

# 痛みと感情のイギリス史

四六判・上製 368頁 定価: 本体2600円+税

伊東剛史 後藤はる美【編】

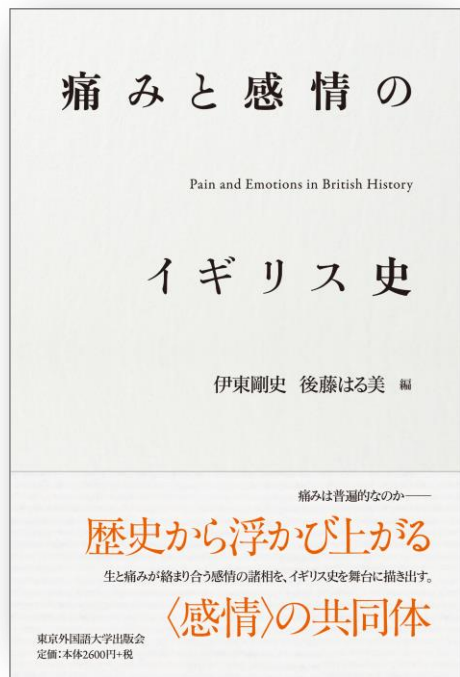
### 【目次】

- 無痛症の苦しみ(伊東剛史)
- I 神経——医学レジームによる痛みの定義(高林陽展)
- II 救済——一九世紀における物乞いの痛み(金澤周作)
- III 情念——プロテスタント殉教ナラティブと身体(那須敬)
- IV 試練——宗教改革期における霊的病と痛み(後藤はる美)
- V 感性——一八世紀虐待訴訟における挑発と激昂のはざま(赤松享子)
- VI 観察——ダーウィンとノウの涙(伊東剛史)
- ラットの共感?(後藤はる美)
- 痛みと感情の歴史学(伊東剛史・後藤はる美)

### 【編者紹介】

伊東剛史(いとう・たかし)  
ロンドン大学 Ph.D. 東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授。  
単著に、『London Zoo and the Victorians, 1828-1859, Woodbridge: Boydell /  
Royal Historical Society, 2014. がある。

後藤はる美(ごとう・はるみ)  
ケンブリッジ大学 Ph.D. 東洋大学文学部講師。共著に『礫岩のようなヨー  
ロッパ』(古谷大輔、近藤和彦編、山川出版社、2016年)、『ヨーロッパ史  
講義』(近藤和彦編、山川出版社、2015年)がある。



注文申込書	貴店名・帖合	注文数	発行: 東京外国語大学出版会 TEL.042-330-5559 FAX.042-330-5199
			伊東剛史 後藤はる美【編】 <b>痛みと感情のイギリス史</b> 四六判・上製・368頁・定価: 本体2600円+税
		冊	ISBN978-4-904575-59-8 C0022 ¥2600E

ご注文はJRCへ →FAX. 03-3294-2177 ※返品条件付き注文扱い